



Fujisaki Hospital

東京都二次救急医療機関 / 日本医療機構認定病院 (Ver6.0)

医療法人社団 藤崎病院

東京都二次救急医療機関 / 日本医療機構認定病院 (Ver6.0)

医療法人社団 藤崎病院

住 所：〒136-0076 東京都江東区南砂 1-25-11

電 話：03-3648-2111

<http://www.fujisaki-hp.com>



藤崎 滋 院長

Profile

1987年防衛医科大学卒業。米国ピッツバーグ大学、国立がんセンター、日本大学医学部附属板橋病院を経て、2003年より藤崎病院で現職。日本大学医学部消化器外科臨床准教授。日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会認定消化器外科専門医・指導医ほか。

TOPICS

検診から手術まで乳腺疾患にも対応

女性の医師と検査技師がいる 女性患者にとって安心の環境

消化器外科に力を入れているイメージがありますが、実は乳腺疾患に対しても手厚く、女性特有の病気にきめ細かく対応しています。乳腺専門医、病理専門医と連携し、チーム体制で手術を行っています。女性医師も週3回外来を担当しており、希望に応じて指名が可能。2階の乳がん検査室には女性の検査技師も在籍しています。



マンモグラフィのほか、エコーでの検診、細胞診や生検などの精密検査が受けられます

外科

特徴 1

消化管・肝胆膵領域で豊富な実績 がん治療にも力をそそぐ

藤崎院長が中心となって手術・治療を行う外科は、食道・胃・大腸といった消化管、肝臓・胆のう・膵臓疾患で豊富な実績を持っています。がん治療に力を入れ、進行がん・再発症例に対しても粘り強い診療を実践。専門医と連携し乳腺や甲状腺疾患・肺疾患にも対応しています。



腹腔鏡下胆のう摘出術を単孔式で行う藤崎院長。切開創が1カ所という限られたスペースで巧みに手術器具を操作する



2つのモニター画面に映し出される胃のカラー画像を見ながら、見事な連携で手術を進めていくオペチーム

腹腔鏡下手術に より低侵襲な単孔式を導入 術後の早期回復をめざす

消化器疾患が9割近くを占め、特に胃・大腸がんの患者が多い外科では、消化器専門の藤崎院長が中心となって執刀にあたり、積極的に腹腔鏡下手術を行っています。

加えて、国立がんセンターや日本大学医学部附属板橋病院で、肝胆膵（肝臓・胆のう・膵臓）の外科手術を数多く手がけてきた藤崎院長は、その実績から、肝臓の切除術や膵頭十二指腸切除術など難易度の高い手術も得意としています。近年、患者さまの体に負担が少ない低侵襲治療として腹腔鏡下手術が普及してきましたが、当院ではより低侵襲な手術を行うために「単孔式」と呼ばれる

術式を導入しています。

通常の腹腔鏡下手術では4カ所を小切開しますが、単孔式は1カ所で済み、主に胆のう摘出や虫垂炎切除に適用され、いざいざもへそを縦に2・5cm程度切るだけなので傷口が目立たず、術後の回復が早いのも特長となっています。ただし、ごく小さな切開創から手術器具を挿入するため操作が難しく、単孔式を扱える医療施設は限られているのが現状です。そんな中、当院では力を入れて取り組み、豊富な実績を誇っています。

また、がん治療では決して諦めない姿勢を大事に治療にあたってきました。これからも、特に高齢者とその家族に対して、住み慣れた地元できめ細かい治療を受けていただけるように、地域に根差した医療を信条としていきます。

患者の皆様へ

藤崎病院は、昭和45年に先代理事長・院長であった藤崎 勇が当地に藤崎病院外科胃腸科病院として開設したことに始まり、地元の急性期医療・救急医療を担う中核病院として歩んで参りました。平成15年4月から、私が院長としてあとを引き継いでいます。一人の医師として、かつ病院の管理者として、患者様に誠心誠意良質な医療を提供して参りたいと考えております。私の専門は消化器・一般外科であります。専門領域にかぎらず、地域の患者様方の診療および健康管理に責任をもって当たらせていただきたく存じます。お加減の悪いところや健康管理などお聞きになりたいことがございましたら、御気兼ねなく外来を受診され、御相談されますようお願い致します。外科、整形外科、脳神経外科、内科の各科診療体制に関しましては、急性期疾患に即応し、常勤医師を中心とした"専門性の高い"しかも"こまわりのきいた、かゆいところに手が届く"医療をめざしたいと思います。画像診断については、放射線医師及び各科専門医による読影の徹底、手術治療に関しては、各科専門医による執刀に加え麻酔科医師を配備し、安心して診断・治療が受けられる体制を堅持します。患者様にとってもっとも適切で精緻な治療計画の策定と実践を行なっていきたいと思います。泌尿器科、循環器科、肝臓科、糖尿病科、乳腺外科・手外科については、専門医師による専門外来をさらに充実させて参りたいと思います。

理事長・院長 藤崎 滋

・ 病院理念 ・

私たちは、地域住民の皆様の健康を第一に考え、安全で良質な安心できる医療を提供します。

・ 基本方針 ・

■ 地域住民の健康に貢献する医療

1. 地域住民の皆様の健康維持・増進を積極的に支援します。
2. 救急医療を推進し、急性期疾患に対して迅速かつ適切に対応します。
3. 地域医療機関と積極的に連携を推進します。

■ 安全で良質な医療

1. 安全な医療を推進するための体制を確保します。
2. 常に、医療の質の向上を目指し、専門知識・技術の研鑽に努めます。
3. 診療ガイドライン・エビデンスを基に考えた医療の提供に努めます。

■ 患者様を中心として安心できる医療

1. 患者様の人格・権利を尊重し、わかりやすい説明と同意を基本に医療を実践します。
2. 安心して医療が受けられるよう環境を整備します。



萱嶋 信介 部長

Profile

1987年防衛医科大学卒業。防衛医大病院、自衛隊中央病院を経て、2000年より藤崎病院に勤務。専門領域は消化器病、糖尿病、血液疾患。日本消化器病学会認定消化器病専門医、日本内視鏡学会認定内視鏡学会専門医・指導医、日本糖尿病学会認定糖尿病専門医・指導医、日本血液学会認定血液専門医・指導医ほか。



1. 食道や胃の消化器病の早期発見に欠かせない上部消化管内視鏡。高い技術を持つ消化器病の専門家による検査にあたる
2. 3～5階にあるナースステーション。質の高い看護で入院患者を支えるとともに、手際の良い仕事ぶりです。

内科

特徴 3

患者本位の診断・治療を實踐
 ～地域の高齢化に対応～
 当院の内科では、消化器・糖尿病・血液疾患などに幅広く対応しています。高度な知識と技術が求められる現代医学において、迅速かつ正確な診断・治療を實踐。重篤な疾患の早期発見のために検査機器も充実させ、高齢化が進む地域ニーズにも応じ、より患者さまの体に負担の少ない検査・治療に力を注いでいます。



大久保 康一 副院長

Profile

1971年東京慈恵会医科大学卒業。同大附属病院の関連病院を経て、1990年より藤崎病院に勤務。同院副院長であるとともに整形外科部長・リハビリテーション科部長。日本整形外科学会認定整形外科専門医、脊椎脊髄専門医、日本手外科学会手外科専門医ほか。

整形外科

特徴 2

高い専門性を誇る手外科
マイクロスージャリーも導入
 当院の整形外科は、骨折や脱臼などを扱う一般整形外科に加え、手の細かな構造を治療する「手外科」で知られています。手術には顕微鏡下で行うマイクロスージャリーを導入し、切断指の再接着などに対応。高い専門性を発揮しています。



365日24時間受け入れをおこなう救急処置室。医師はここで適切な検査処置をおこなう



6階のリハビリテーション室。運動機能や心肺機能を高めることを目的に入院患者の術後のリハビリが行われている

受け入れを断らない 柔軟な診療姿勢で 手術数は江東区屈指

突発的な事故によるけがの治療が中心の整形外科。藤崎病院は二次救急を担っていることもあり、昼夜を問わず救急の患者さまが運び込まれてきます。そのため医師は夜間もオンコール体制で診療にあたり、手術件数は江東区でもトップレベルを誇っています。
 特徴的なのは「手外科」と呼ばれる特殊な分野。顕微鏡を使って手術を行う「マイクロスージャリー」で完全に切断された指の再接着や、かろうじてつながっているような切断指の血行再建、組織の欠損部を補う遊離組織移植など、手指から肩肘にかけて上肢全体の手術を行います。

手の構造はとても微細。神経や血管を縫合したり剥離させたりするには、肉眼の20倍程度まで拡大できるマイクロスージャリーのような顕微鏡が欠かせないと考えています。

一方、関節外科の診療も幅広く対応しており、変形性関節症に対する人工関節置換術や関節鏡による膝関節術、膝をはじめとするスポーツ障害などの診断・治療に力を入れています。
 また脊椎外科では週1回、脊椎脊髄の専門家として知られる日本鋼管病院脊椎外科センターの大森一先生を招き、質の高い医療を提供しています。
 さらに受け入れ先が限られる小児骨折も積極的に治療し、他院からの受け入れ要請に柔軟に対応するなど、どんな患者さまを断らない姿勢を大切にしています。

TOPICS

顕微鏡を使うマイクロスージャリー

マイクロスージャリーは肉眼の20倍程度に拡大できる顕微鏡と専用機器を使い、1mm程度の細い神経や血管を縫ったり剥がしたりする手術手技の一つです。特殊な技術を習得した医師でないと容易に扱えないため、導入できる病院は限られています。当院には扱いに慣れた熟練の手外科専門医が2人（大久保康一先生・荒川雄一郎先生）いて、江東区以外からも運ばれてくる救急患者にも対応しています。



マイクロスージャリーで手の外科手術を行う

低侵襲な内視鏡検査や放射線・超音波検査など正確な診断と治療に力を入れる

当院では上部消化管内視鏡による検査と治療に力を入れており、消化器疾患全般、特に胆道系・膵管系の診断と治療について、精力的に臨床・研究を行っています。
 高齢化が進む日本の現代社会において、江東区もその例に漏れず、体力的に検査や治療が困難な高齢者が急増しています。そこで、できる限り体に負担の少ない低侵襲な方法で十分な治療効果を挙げる医療を實踐。食道・胃・大腸悪性腫瘍の切除やステントリング、食道静脈瘤、胃・十二指腸・大腸病変からの出血に対する止血、総胆管結石の切除などに内視鏡を積極的に用いています。結果的に体に大

きな負担を与える開腹手術を避けることに貢献しています。
 患者数の多い糖尿病治療では適切な食事療法や運動療法など正しい知識と対処法を指導。また発症頻度は少ないものの、個々の疾患が多様な血液疾患についても専門で、骨髄移植こそ行っていないが、その必要性の有無を迅速に診断し、時として適切な医療機関を紹介しています。
 そのほかに在宅で慢性疾患の治療をされている高齢の患者さまが急性増悪（症状が急に悪化して緊急入院するケース）も多く受け入れています。
 このような実績をつんできた当院の内科は、日本消化器病学会、日本糖尿病学会、日本血液学会の専門医制度の研修認定施設にもなっており、患者さまからも信頼してご利用いただけると思います。

TOPICS

内科を担うドクターたち

患者第一主義で地域医療に貢献 地に根差した診療をめざす

常勤医師、非常勤医師合わせて10人で診療にあたる内科では、専門性の高いドクターがそれぞれの分野で力を発揮しています。中でも内科部長の萱嶋先生は日本消化器学会認定の消化器病専門医、日本糖尿病学会認定の糖尿病専門医・指導医、日本血液学会認定の血液専門医・指導医など、数々の資格と豊富な経験を持っています。医師の知識や技術はもちろん、患者さま第一主義の姿勢で地域医療に貢献し、医学の進歩を患者さまに還元していきます。地域密着型で自身や家族の健康について何でも相談できる身近な病院として、わからないことはまずはお来院いただき、お気軽にご相談いただければと思います。

その他の特徴

地域に根差した質の高い医療の提供を目指す当院には、各診療科の検査・治療設備のほかにも患者さまが快適に受診できるよう、さまざまな設備をそろえています。

カプセル内視鏡

超小型カメラ内蔵のカプセルを飲むことで難しかった小腸内部の撮影が可能に

当院ではカプセル内視鏡検査を導入。超小型カメラを内蔵したビタミン剤サイズのカプセル（長さ26mm、直径11mm、重さ3.45g）を水と一緒に飲み込むと、従来の内視鏡では難しい小腸粘膜の撮影が可能。これまで見つかりにくかった小腸のポリープや潰瘍などの発見が期待されると同時に、患者さまの体への負担も軽減されます。飲み込んだカプセル内視鏡は消化管内を進みながら、1秒間に2枚の画像を撮影し通過し、画像はあらかじめ腰に装着したデータレコーダーに保存され、カプセル内視鏡は排便時に排出されます。撮影時間は8時間程度でその間、通常の生活を送れます。検査前日の夕食は消化の良い食事にとどめ、午後10時以降は絶食（水分も不可）。ただし、薬は少量の水で検査開始2時間前まで服用いただけます。喫煙は24時間前から控えること。なお、内視鏡検査を含む上部・下部消化管検査の結果、原因不明の出血を伴う小腸疾患を診る場合、医師が画像診断を必要と判断すれば保険適用となります。



ナビゲーションシステム



外科手術を支援する医療機器の一つで、手術中の患者さまと手術器具の位置関係を検出。モニターに表示されるリアルタイムの3次元画像によって、例えば整形外科手術では骨と器具の位置関係を確認できます。当院では肝臓の手術や整形外科手術に活用されています。

診察順を案内する電光掲示板



病院の待ち時間は診察順が気になるもの。そこで診察状況を知らせる電光掲示板を設け、診療科ごとに診察中の受付番号と、まもなく呼び出しがかかる受付番号を表示。「待ち時間のフラストレーションが解消される」「外へ出て用を済ませることができる」など好評です。

診療時間のご案内

【診療時間】

9:00 ~ 13:00、14:00 ~ 17:00

【受付・診療時間】

8:00 ~ 12:30、13:30 ~ 16:30

※ 救急診療（東京都指定二次救急医療機関）は、365日・24時間対応
※ 急患の場合は、随時受け入れています

診療科目

外科、脳神経外科、整形外科、内科、循環器科、肛門科、胃腸科、リハビリテーション科、麻酔科、放射線科（画像診断部）

専門外来

泌尿器科、呼吸器科、糖尿病科、肝臓病科、乳腺外来

病床数：119

受付手順

初診について

診療申込書を記入

紹介状をお持ちの方も、紹介状をお持ちでない方も記入ください

初診受付へ

保険証、診療申込票、紹介状をお持ちの方は提出してください

お預かりした保険証をお返しします

各科の外来待合へ

再診について

再診受付へ

再診で診療科もしくは専門外来を受診される場合

再診受付へ

CT・MRI・超音波・内視鏡・生理機能検査等の検査予約の方

再診受付へ

自動再診受付機に診察券を挿入して下さい



2014年1月から導入された自動再診受付機操作方法がわからない場合はスタッフがサポートします。

各科の外来待合へ

各検査科の受付へ

医療法人社団 藤崎病院

T e l : 03-3648-2111

A d d : 〒136-0076 東京都江東区南砂1-25-11

Parking: 無

C l o s e : 日曜・祝日・年末年始（12月30日～1月3日）

U R L : http://www.fujisaki-hp.com



石井 康博 部長

Profile

2002年愛媛大学卒業。藤崎病院に勤務する傍ら、東京大学大学院で脳疾患の研究にも取り組み2013年修了。脳外科部長。日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医、日本脳卒中学会認定脳卒中専門医。脳血管障害と頭部外傷の治療を得意とする。

TOPICS

手術で改善できる認知症

特発性正常圧水頭症はシャント手術で改善も

アルツハイマー型を筆頭に脳血管性、レビー小体型などに分類される認知症。中でも少数派の特発性正常圧水頭症と診断された場合は「シャント手術」（髄液短絡術）と呼ばれる方法で、このタイプに顕著な歩行障害を改善できます。手術は体内にカテーテル（管）を埋め込み、脳室の髄液を排除して脳室のサイズをもとに戻し、脳の機能を正常化させるもの。2～3日の入院で済みます。



手術室は2つ。脳外科のほかに他科のオペもひっきりなしに行われるため、医師をサポートする看護師の活躍も大きい

小児の頭部外傷も積極的に受け入れる認知症の一部は手術で改善

もともと脳外科が少ない江東区において、当院の担う役割は大きく、江東区の患者さまは、やはり江東区でしっかりと受け入れなくてはならないという信念のもと診療にあたっています。最も患者さまが多い頭部外傷において、小さなけがから手術が必要なケースまで幅広く対応しています。受け入れは成人・小児を問いません。特に小児の場合は「子どもが頭をけがしたとき、小児科で診てもらえなかった」「自宅近くに脳外科がない」などの声が多い中、受け入れに柔軟な当院は地域の子育て世代に頼りにされています。

頭部外傷に次いで多い、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など

も昼夜を問わず診ていますが、いずれも治療までの時間が改善の鍵を握るため、迅速かつ正確に画像撮影できるCTやMRIなどの最先端検査機器を充実させ、早期診断・早期治療につなげています。

平成26年1月には脳卒中センターも新設。夜間のオンコール体制や手術をしない血管内治療を強化し、従来は対応しきれなかった脳卒中患者の受け入れを可能にしました。

また、「てんかん診療ネットワーク」に加入し、てんかん治療にも力を入れる当院では、江東区でもまれなてんかん患者の受け入れ先として軽い症状から受け入れを伴う重い症状にまで対応。さらに、超高齢化社会で増え続ける認知症に対して、手術で改善できる治療法に積極的に取り組んでいます。

脳外科

特徴 4

脳疾患全般を幅広く診療 脳卒中センターも新設

頭部外傷や脳卒中、てんかんなどの脳疾患全般に対応する脳外科。早期の受診・診断・治療が肝心の領域にだけに、外来・救急とも万全の受け入れ態勢を整えています。脳卒中センターの新設により診療の幅をさらに広げています。



64列マルチスライスCTを完備。より短時間でより細かい断面を撮影でき、広範囲の情報を画像化できる



MRIは脳疾患の検査・診断に欠かせない機器の一つ。診断までのスピードを上げ、早期治療につなげている